

善意のマスク、続々と

徳島・阿南の会社G.F.▼七ヶ宿町に3万枚

七ヶ宿町で風力発電事業を計画する徳島県阿南市の会社G.F.が9日、新型コロナウイルス対策として、町にマスク3万枚を贈った。

町役場で藤崎耕治社長は「自然エネルギー発電で地球

環境に貢献するとともに地域のために今できることを考えた」と話した。同社は香川県や鹿児島県などで太陽光発電を手掛け、各地で風力発電計画を進める。

小関幸一町長は「感染拡大の第2波、第3波に備え、早期に住民に配れるようになりありがたい」と感謝した。町は全626世帯にマスク50枚入り1箱と、町内で使える1万円分の商品券を配布する。



マスクの目録を小関町長（右）に手渡した藤崎社長（中央）

計画は「(仮称)種子峠ウインドファーム」で、最大出力13万8600瓩、風車33基

塩釜・ごんきや

葬儀社のごんきや(塩釜市)は、新型コロナウイルス感染症防止のため塩釜市内の小中学校10校で消毒作業に当たる

設置を見込み、2029年1月の営業運転開始を目指す。計画段階環境配慮書は今年30日まで、町ふるさと振興課や県環境対策課などで縦覧できる。

60人が平日の放課後に、4人一組で校内の消毒に従事している。活動は今月末まで続ける。

引地理事長は「収束が見えない中、支援は心強い。児童生徒はもちろん、作業をする高齢者にも感染させないようにマスクを大切に使いたい」と感謝した。

市シルバー人材センターに、マスク1000枚を寄贈した。

佐藤知樹社長が1日、センターを訪れ、引地栄五理事長にマスクを手渡した。佐藤社

作業はセンターが市から委託。会員約320人のうち約

仙台の会社「P.L.E.」▼フリースクールに500枚

仙台市のデザイン会社「P.L.E.（パイル）」は、新型コロナウイルスの感染防止に役立ててもらおうと、太白区郡山でフリースクールと児童クラブを運営する「フリースクールの他、フリースクールなど

通う2人にマスクを手渡した。

フリースクールは小中高生30人、児童クラブは児童27人が利用。小学校の休校期間、児童クラブは朝7時半から午後8時すぎまで運営してきたが、マスクが足りず、手作りが、マスクを分け合うなどしてきた。佐藤社長らは知人を通じてだいたを知り、運営するオンラインショップで扱うマスクの寄贈を決めた。



児童にマスクを手渡す佐藤社長(左)



引地理事長(左)にマスクを手渡す佐藤社長

みやぎ

街ひと話題